

2023世界少年野球大会規定

1. 本大会は、A、B、Cの3組による予選リーグと決勝トーナメント（準決勝戦、決勝戦）を行う。
2. 予選リーグはA組、B組、C組に分けて同組内総当たりの3試合と他組1試合の計4試合行い、勝ちチームに勝ち点2 引分けの場合は両チームに勝ち点1とする。
3. 決勝トーナメントは、A、B、C各組の1位が進出し、各グループ2位から上位1チームをワイルドカードとして選出する。
4. 登録選手は、2008年4月1日以降に出生した選手に限る。
(年齢はパスポートのコピーで大会前2023年7月10日までに大会本部に提出し確認する)
5. 登録選手は、1チーム14名以上20名以内とする。
6. チーム責任者、登録された監督、コーチ、スコアラー等（スタッフ4名迄）と選手、通訳のみベンチに入ることが出来る。
7. 組み合わせの前位のチームが1塁側ベンチ、後位のチームが3塁側ベンチに入り予選リーグ戦は1塁側ベンチチームが先攻、3塁側ベンチチームが後攻とする。決勝トーナメント戦は試合前オーダー表交換時に試合責任審判員、両チーム監督立会い、両キャプテンにより先攻、後攻をコイントスで決める。
8. 監督、コーチは選手と同じユニホームを着用する。
9. 試合開始1時間前には試合場に到着し、球場本部に到着を報告する。
10. 到着と同時にオーダー表を5部、球場本部に提出すること。
11. 各試合は7回戦で行い、5回終了を持って正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間を超えた場合、新しいイニングには入らない。(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は後攻チームが攻撃中でも規定時間になれば、その時点で試合を終了する)降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合は、サスペンデッドゲームとする。
12. 5回終了以降(後攻チームの得点が先攻チームの得点より多い場合は、5回表終了時)10点差の場合はコールドゲームとする。
13. 予選リーグは7回終了で同点の場合、延長戦は行わない。
決勝トーナメントは時間内延長あるいは試合開始から2時間を超えては(どちらか早い方)新しいイニングに入らず、タイブレーク方式を実施する。
14. 投手の投球制限については大会運営側として投球数の監理は行わない。
但し、指導者は選手の健康、障害防止の為、各国の規定に従い自主管理を行った投手起用とすること。

15. コーチスボックスには、監督、コーチ、選手が入ってもよい。
16. 監督、またはコーチの指示、伝達は1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。
延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれで 1 回の指示、伝達を認める。
(選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない)
17. 1試合を通じて守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となる。その投手は他の守備についてもよいが、その回が終了するまで再び投手として登板することは出来ない。その回が終了すれば、再び投手に戻ってもよい。また1イニングで同一投手に対して指示、伝達が2回目となった場合でも自動的に投手交代となる。
内野手が 2 人以上投手のところに行った時も 1 回に数える。
18. 監督、またはコーチが選手にアドバイスするときは、マウンドのところで行うことが出来る。(ベンチからは駆け足で)
19. 監督、コーチ、選手は審判のジャッジに対して抗議することを厳禁する。ただし規則上の疑義申し出については、監督又は当事者のみが審判に説明を求めることができる。この場合は「1分以内」に規制する。
20. 打者用ヘルメットは、各国規定のものを7個以上揃えること。
21. 捕手は必ずヘルメットならびに各国規定の防具を着用すること。
22. グラウンドの都合で、大会規定が別に定められるときはそれに従うこと。
23. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
24. 光化学スモッグ発生の場合は、試合及び選手に対する措置は別に定め、運営委員の指示に従う。
25. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況や試合終了時間を勘案してシートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。
26. 予選リーグで勝ち点と同じ場合は、次の規定により順位を決定する。
 - ①直接対決の結果。なお決められない場合は、下記の規定を適用する。
 - ②全試合総失点の少ないチームを上位とする。
 - ③総失点の同数の場合、全試合の総得点の多い方を上位とする。
 - ④総失点、総得点と同じ場合、総攻撃回数の少ないチームを上位とする。
 - ⑤なお、勝敗の決しない場合、コイントスにより順位を決定する。
27. ワイルドカードの決定については以下を採用する。
各予選リーグの2位チームを対象とし、勝ち点と同じ場合は、上記26.②～⑤の規定の順により決定する。
28. 塁間は 90 フィート、バッテリー間は 60.6 フィートとし、国際ルールに従う。
29. 試合用道具については各国規定のものを使用する(バット・グローブ含む)。
ただし破損やひび割れのない安全なものとする。
30. リエントリーは採用しない

31. DH制を採用する。

32. 夏季給水タイム規定

各試合4回終了時10分間の給水タイムを取る。給水タイム中、選手はベンチ内で休息をとる事。（4回裏3アウト時から5回表プレイコール迄を10分とする）

【タイブレーク実施細則】

(1) 特別規則

- ①予選はタイブレークなし。決勝トーナメントは7回あるいは2時間00分を超えて、両チーム同点の場合、以降の回の攻撃は、一死走者満塁の状態から行う。
- ②打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
- ③3人の走者は前項の打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の者が二塁走者、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
- ④この場合代走は認められない。

(2) チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に注意すること。

① 投手記録

○規定により出塁した3走者は、投手の自責点にはしない。

完全試合は認めない。

○無安打無得点試合は認める。

② 打撃成績

○規定により出塁した3走者の出塁の記録はないものとする。但し盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。

○規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などはすべて記録する。

【コロナ感染対策】

各国の基準に従い行うこと。感染状況に応じ日本国行政指導が発令された場合それに準ずること。